

附属機関等の名称 会議概要

1	審議会名 第9回安曇野市地域包括ケア推進会議（書面協議）
2	日 時 令和4年3月15日(火)
3	会 場
4	委 員 武井学委員、内川剛委員、横林和彦委員、村山幸一委員、宮澤栄子委員、玉井英男委員、村岡早苗委員、栗原香代子委員、高津隆行委員、藤松兼次委員、松嶋隆徳委員、佐々木一夫委員、渡邊博文委員、藤原嘉委員、二木弘委員、池田陽子委員、八田桂子委員、中島美智子委員、赤羽史夫委員、戸谷尚史委員、宮澤豊次委員、柳澤賢次委員
5	市側出席者 鳥羽保健医療部長、丸山長寿社会課長、上條国保年金担当係長、黒岩健康推進課長、高橋健康推進課長補佐、西澤介護保険課長、北條介護保険課長補佐、高橋介護保険担当係長、深井介護予防担当係長、乗松保健師、野本職員、中澤介護予防担当係長、児林保健師
6	公開・非公開の別 公開
7	傍聴人 0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日 令和4年3月28日

協 議 事 項 等

会議の概要

1 協議事項

- (1) 高齢者・障がい者の「安曇野市地域見守り活動に関する連携協定」の実施状況について
- (2) 令和3年度認知症初期集中支援チーム活動報告
- (3) 介護保険事業計画に基づく介護サービスの施設（基盤）整備等状況
- (4) 地域ケア個別会議・安曇野市地域包括支援センター連携推進会議について
- (5) 令和3年度安曇野市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業まとめ

審議概要

協議事項

- (1) 高齢者・障がい者の「安曇野市地域見守り活動に関する連携協定」の実施状況について（資料1）
- 委 員：他団体の活動を参考にさせていただき、更に活動を推進していくようにしていきたい。住民への周知もお願いしたい。
- 委 員：社協さんの更なる主導的な活動、期待したい。
- 委 員：引き続きこの内容でよい。但し、各事業所へ配布したステッカーが日焼け等で白くなっており、再度配布を期待したい。
- 委 員：高齢者・障がい者を地域全体で見守っていくための素晴らしい取組みだと思った。
- 委 員：見守り協定団体、企業23の多くは、見守りの意識化に努め、安心、安全の地域づくりに貢献している。
- 委 員：見守りの実績の状況はどうか気にかかる。
- 委 員：地域見守り活動の意識の啓発は私達一人一人が常に意識することが大切なことと思う。
- 委 員：コロナ禍でサロン活動が休止している。元々、月1回の活動のところ全く開催出来ないカフェもある。居場所づくりが進まない現状。
- 委 員：協定締結団体が増えることにより、見守りをし住み慣れた地域で安心して暮らせることが出来てよいと思う。
- 事務局：経年劣化や汚損があるステッカーにつきまして、ご連絡いただければ、再度配布いたします。
- 事務局：見守り活動の実績や活動内容については市ホームページに掲載しております。（生活支援体制整備事業でご検索下さい。）
- 事務局：今後も、締結団体を増やし、高齢者・障がい者が地域で安心して生活できるよう、地域の見守り活動を進めます。地域見守り活動について、それぞれの団体の取組を把握し、周知啓発を進めます。

(2) 令和3年度認知症初期集中支援チーム活動報告(資料2)

委員：頻繁な開催で大変だと思うが、活動を続けていただきたい。

委員：独居、介護認定なし、介護に至らない状況の中で地域で暮らしていく(施設でなく)時に、大変心強い活動であり、継続必要と思う。

委員：現状がどうなっているのか解決していないと思われるところもあり、表記されるとわかりやすい。

委員：困難ケースに対して、関係者間で連携を取り、きめ細かい対応がされている印象を持った。

委員：認知症者への対応は支援チームとしてよく取り組んでいる。

委員：今日、高齢化が進む中、認知症者が増加すると推測される。ますますこのことへの対応が必要となる。

委員：認知症を当たり前の事とし、気軽に相談できる地域に思わなくてはと思う。

委員：大変参考になった。業務にも役立てていきたいと思う。

事務局：支援期間終了後については地域包括支援センターとの連携や、チーム員による定期的なモニタリングを行い、必要に応じ、適切な関係機関への連絡や繋ぎを行い支援しています。

(3) 介護保険事業計画に基づく介護サービスの施設(基盤)整備等状況(資料3)

委員：異議なし

委員：整備を進めてほしい。

委員：ショートステイからの入所への切り換えの背景がコロナ感染の対応であったのか、理由等、表記されているとわかりやすい。

委員：昨年度当法人の特養でも短期入所への転換を行った。地域のニーズの移行に合わせていくのは重要なことだと思う。

委員：現役世代が少なくなることで高齢者みんなで力を出し合って支えていくことを基本にしながらも基盤整備は大事なこと。

事務局：ショートステイから特養への転換につきましては、入所希望者の増加および低所得の高齢者でも利用可能な、特養の床数確保を目的として、第8期介護保険事業計画に位置付けました。

事務局：今回は、計画に基づき転換を実施いたしました。

(4) 地域ケア個別会議・安曇野市地域包括支援センター連携推進会議について(資料4)

委員：問題についての解決策を累積することで同じような問題が起きた時の参考にもなるので是非推進していただきたい。

委員：独居、認知症等、地域で取り組む大切な存在として地域包括支援センターの重要性がわかった。(異議なし)

委員：今後ますます地域包括支援センターの高齢者への支援が期待される。

委員：高齢者への困りごとへの対応に地域包括支援センターはとても良く取り組みをしていると思う。

委員：ますますフレイル状態の独居者が増えると思う。地域包括支援センターがもっと気軽に相談できる身近なものにしたい。

委員：認知症見守りネットワークを利用し、住み慣れたところで住み続けられるように地域で支えていただけるようになればいいと思う。

事務局：地域ケア個別会議で出た課題に対し、包括だけでは対応できない課題については連携推進会議において関係機関を含めて検討していく必要があると考えます。また、困難事例については、連携推進会議において他の地域包括支援センターと共有することにより、対応力のスキルアップにつなげていきます。

事務局：地域包括支援センターの周知については、今年度明科地区において出張相談を開催しました。広報やチラシ等でお知らせしたところ、4名の方のご相談があり、実際に介護申請につながっています。また、以前には年金支給日に合わせ金融機関来客者に対し相談窓口の案内チラシを配布したこともあります。今後より多くの方に地域包括支援センターについて知っていただく機会を作っていきます。

事務局：介護が必要になってからだけではなく、介護予防を意識して事業に取り組むことが必要です。来年度より自立支援型個別ケア個別会議の開催を予定しており、薬剤師や理学療法士等専門職からの幅広い意見をいただけることになっています。今後の支援に活かしてまいります。

(5) 令和3年度安曇野市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業まとめ(資料5)

委員：きちんとした健診、治療がフレイルへの移行や介護への移行を食い止めることができるので重要だと思う。

委員：コロナ感染拡大の中での事業継続はどうだったのか知りたい。

委員：今日、地域での孤立、孤独、孤独している世帯が増加している。特にひとり暮らし高齢者への健康状況把握が求められている。

委員：一層、介護予防事業に力を入れたいと思う。

委員：安曇野市の地区別実績がとても分かりやすい。早期発見が予防に繋がるとよいと思う。糖尿病の重度化を予防することは認知症予防にも繋がるので引き続きお願いしたい。

事務局：通いの場等へのポピュレーションアプローチでは、新型コロナウイルス感染症の感染症対策を講じ、集団講話、個別相談等を実施しました。蔓延防止期間は会場への訪問を控えざるを得ませんでしたが、資料提供等を実施しました。

事務局：医療、介護サービスに繋がっていない高齢者宅へ看護師、保健師が訪問し、健康状態等を確認する中で、状況に応じて、受診勧奨をすると共に地域包括支援センターなど相談先の案内を行いました。また、必要に応じて関係機関へ支援のつなぎを行っています。今後も、健康推進課と連携しながら、重度化予防、介護予防について広く周知し、事業を推進していきます。